情報管理 JOHO KANRI 2009 vol.52 no.7 10 October
Journal of Information Processing and Management
http://johokanri.jp/

集会 Meeting 報告

学術情報の自由な集いが生む新たなつながり

第4回ARGカフェ＠仙台

日 程　2009年6月20日(土)
場 所　せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）
主 催　ARG

ARGカフェ，を御存知だろうか？ 2008年7月の第1回から，2009年の6月まで，わずか1年の間に都合4回開かれたトークイベントだ。参加者は，平均して50人程度と言うが，そのうちの10～12人程度が喋る。なのに，2時間で終わるのだ。使われるのは，一人5分，電光石火のライトニングトークという手法，集うのは，情報学の研究者，ライブラリアン，知る人ぞ知る有名ブロガー，時に，詩人，科学コミュニケーター。異色のイベントに集う，異色の人々の間から，交流が生まれ果実が生まれつつある。初めて東北地方で行われた，第4回ARGカフェ＠仙台の様子を報告し，何かが生まれそうな交流の場のあり方を探ってみよう。

第4回ARGカフェ＠仙台の概要をまず振り返る（表1）。今回は，大学図書館に所属する人々に登壇がやや偏った面もあるが，多彩な顔ぶれであることはわかるだろう。話題は，図書館の取り組み紹介から印刷事業，詩の朗読までさまざまだが，一人あたりの持ち時間がわずか5分なので，手法（時に紙芝居），声，プレゼン時の歩き方など，工夫を凝らして，参加者の関心をつかみ，イベント後の交流に生かそうとしている。

今回は，東北初開催ということもあり，初めて参加した，という参加者も目立つ。その一人，東北大学附属図書館の佐藤亜紀子はこう語る。

「初めて参加したが，何度でも参加したいと思うイベントだった。ライトニングトークでは，時間制限のために情報量は少なくなる。しかし，聞く側が疑問を持ったり，自分の都合の良いように推測したりする余地があることで，その後のコミュニケーションがより活発になるように感じた。

予想外の収穫は，さまざまな業界の人と会話する

写真1　ARGカフェの風景

表1　第4回ARGカフェ＠仙台　概要

日時：2009年6月20日（土）16:30-18:00
会場：せんだいメディアテーク7F（宮城県仙台市）
登壇者と所属： ・矢内美どり（茨城大学図書館） ・和知剛（郡山女子大学図書館） ・熊谷慎一郎（レファ協ほめまくり/宮城県図書館） ・渡邊愛子（東北大学附属図書館） ・福林靖博（国立国会図書館） ・長神風二（東北大学脳科学グローバルCOE） ・半澤智絵（東北大学附属図書館工学分館） ・林賢紀（農林水産研究情報総合センター） ・岡本真（ACADEMIC RESOURCE GUIDE（ARG）） ・武田こうじ（詩人） ・佐藤亜紀（山形大学附属図書館医学部分館） ・笹氣義幸（笹氣出版印刷）

写真2　紙芝居を使って演じる発表者。短い持ち時間の中で，それぞれの演者は工夫を凝らしている

中で，職場内・業界内が抱える問題を客観的な視点で整理できたことである。お互いの職場・業界についてよく知らない者同士が話すことで，組織内部の余計な事情や言い訳は，会話から自然と省かれる。そうすることで，難しいと思っていた問題が実はシンプルなことだったと気づかされた」

さて，このARGカフェ，始めたのは，メールマガジンARG（=ACADEMIC RESOURCE GUIDE）[1]の編集長，岡本真だ。ARGは，読者数4,500超を抱える，学術情報を中心としたメーリングリストで，本誌にも紹介されている[2]。ARGカフェは，もともとは，ARGの創刊10周年記念として始めたというが，「一言で言うと，私を介さず人と人とをつなぐプラットフォーム」という。メルマガ，ブログに，雑誌モデル的な媒体中心に著者と読者の仲立ちをする構造と同じ限界を感じ，「ARG自体を構造転換し，メディアからプラットフォームへと立ち位置を変えようと思った」，そして始めたのが，ARGカフェ＆フェストという。フェストは，カフェに引き続いて行われる立食形式パーティーで，本来切り離せないものだが，本稿では誌面の都合上割愛する。短い期間の間に4回を数えているが，「来てくれた人が新たな出会いを得ることができて，さらにそこからコラボレーションも起きて，それが嬉しくて，また次も来る。そして運営も手伝ってくれるという流れ」を作るための“場のアーキテクチャー”を考えて始めたから，運営も決して困難ではない，という。第3回までの開催は表2にまとめた。

表2　ARGカフェ第3回までの歩み[注1)]

第1回　2008年7月12日　THE SPACE OF AKIBA3021（東京都・秋葉原），30分の講演と11人のライトニングトーク
第2回　2008年11月28日　パシフィコ横浜（神奈川県・横浜），11人のライトニングトーク
第3回　2009年2月21日 京都市国際交流会館 研修室（京都府・蹴上），12人のライトニングトーク

このARGカフェ，ただのトークイベントではないのは，わずか4回の開催の中から，何かが生まれつつあるからだ[注1)]。例えば，筆者の1人長神は，第4回をきっかけに，仙台市民図書館との間でコラボレーションの芽を作ることができた。脳科学のイベントを2009年7月12日に「せんだいメディアテーク」で実施した[3]が，それにあわせて，脳科学の特設書棚を仙台市民図書館に設けていただくことができた。ARGカフェの際の紹介が縁だ。岡本は，ARGカフェがもとで，「後日聞くことが多いのだけれど，予想外の組み合わせでコラボレーションが起きてくる」という，そして，「実際，この記事もその一つ」なのだ。「自己紹介や名刺交換代わりにライトニングトーク」（岡本）なので，参加だけだとフラストレーションもある。前出の佐藤は語る。「私は終始，バラエティ豊かな参加者の話を聞いて回るだけで精一杯だった。自分が相手に提供できる情報が少ないため，まるで目の前に用意された引き出しを片端から開けていく子どもの気分である。本来は，すべての参加者が発信者になることがこのイベントの特徴であり，楽しみ方であり，最も有益な使い方なのだろう。今回，その点をとても悔しく思っている。ぜひ次の機会には，より多くのことを発信する側として参加したい」こうして参加者の輪は広がっていく。

異質なものを取り込む場は，ある意味で，誰にとっ

ても“アウェー”感のある場だ。勇気を奮って，初参加でライトニングトークに挑んだ，山形大学附属図書館の佐藤亜紀のレポートをコラムとして末尾に取り上げる。読者諸賢もまた，思うはずだ。第5回目，6回目は？　自分の地方に来てくれることはあるのか？「ARGカフェは，年内にさらに2回開催が決まっている。8月に大阪で開催して，11月には図書館総合展にあわせて横浜で開催，2月頃にできればつくばでやりたい。どこにでも行くし，いずれは自分なしでも，そこら中で開催されればいい」。単なる集会にとどまらない，フレキシブルなプラットフォームは，次の参加者を，そして，ひょっとしたら主催者を待っている。岡本は語る。「私がいなければ開催されないのでは，結局，限界に行きあたる。みんなのプラットフォームとして，人と人とが職業や分野，地域といった違いを超えて，出会ってコラボレーション

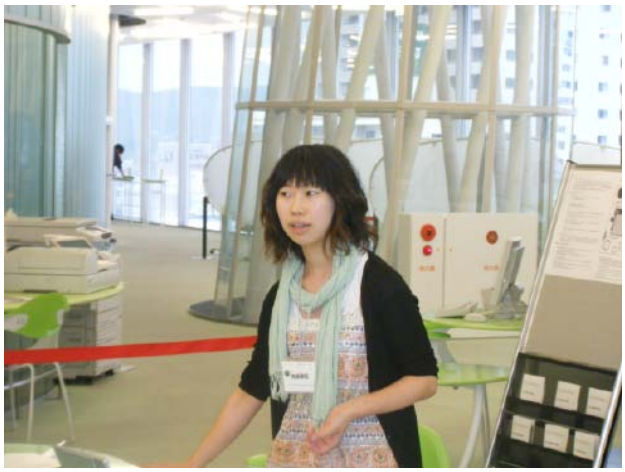

写真3　身ぶりを交えて熱心に発表する山形大学附属図書館の佐藤亜紀（筆者の一人）

に発展する機会を創ることを目的に，私がいる・いないに関わらず広がっていけばいい。ノウハウはどんどん伝えるので，ぜひいい意味での分派活動に広がってほしい」

＜コラム＞ARG初参戦の感想と効果に対する自己評価

佐藤亜紀（山形大学附属図書館）

今回のARGカフェ＠仙台は聴く・話すともに初めてで正真正銘の初参戦。その上，テーマを決める前に参加を決めてしまい，何を話すか悩みました。しかし先輩の導きもあり，結果的には『誰かと話したい・集いたい・つながっていたい』という以前からの熱い気持ちを形にする絶好の機会となりました。当日までの道のりは平坦ではなく，準備のため連日夜更かししたり，未知なる舞台への極度の緊張で前日は食事もろくに喉を通らなかったりとめったにない経験もしました。

当日，まず会場に驚きました。通路ともロビーともとれるようなとても開放的な場所だったので「声が後ろまで届くのだろうか」と不安になりました。自分の発表を控えて夢中になることはできずに聴く興味深い諸先輩の発表，そして，自分の出番になり…「ワタシはコミュニケーションに飢えている！ MULU＝みちのく大学図書館員連合準備中！ 参加者求む!!」，あっという間の5分間が終わりました。

カフェ後のフェストで，私の発表に対して思いのほか良い反応を頂き，提案した『何でもありの自由参加型コミュニティ』に多くの方が賛同してくれたように思います。また図書館職員以外の方々ともお話しすることができ，「これからまだまだやることが一杯だ」と思いを新たに。このように普段の暮らしでは中々遭遇できない出会いが多々あり，「自分の人生を変えるものになる」と感じました。

＊なお，本稿は，岡本真，佐藤亜紀，佐藤亜紀子の書いた文章をもとに，長神が最終的に構成した。発言部分の文責は各著者に帰するが，全体の構成責任は長神にある。写真は，岡本真による。被写体となった写真の掲載を快く許可してくれた矢内美どり氏（茨城大学図書館）はじめ，ARGカフェに会場提供，話題提供そのほか御協力下さったすべての方に，この場を借りて感謝したい。

（東北大学脳科学グローバルCOE　長神風二，ACADEMIC RESOURCE GUIDE 岡本真，山形大学附属図書館医学部分館　佐藤亜紀，東北大学附属図書館工学分館　佐藤亜紀子）

本文の注

注1）本稿投稿後の2009年8月22日（土）に，ドーンセンター（大阪）で第5回が，11人のライトニングトークを得て開催されている。

参考文献

1）岡本真. ACADEMIC RESOURCE GUIDE（ARG）. http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/ARG/, (参照2009-08-06).

2）森田歌子.「継続は力なり」を実践したパブリッシャー　創刊10周年を迎えたACADEMIC RESOURCE GUIDE　個人でWeb出版を継続してきた編集人, 岡本真氏の力の源を探す. 情報管理. 2008, vol. 51, no. 7, p. 522-523.

3）東北大学脳科学グローバルCOE.“第3回脳カフェ「杜の都で脳を語る」”. 東北大学脳科学グローバルCOEホームページ. http://ja.sendaibrain.org/topicsDetails/cafe090712/, (参照2009-08-06).